



ねこまつりのしょうたいじょう

いとうみく作 ^{すずき} 鈴木まもる絵 ^{きん ほししゃ} 金の星社

夏^{なつ}休^{やす}みは、残り^{のこ}三日^{みっか}。ぼくがアイス^たを食^たべていると、あたり^でが出^でた。棒^{ぼう}には、『アタリネコゾクネコマツリゴシウタイ』と書^かいてある。ねこぞく？ねこまつり？なんのことだろう。あたり棒^{ぼう}にあるとおり、さんかく山^{やま}へ行^いってみると、そこには二百匹^{にひゃくびき}のねこたちがいた。

ねこの話^{はなし}では、ぼくは選^{えら}ばれし、まつりの担^{にな}い手^てらしい。明日^{あす}の日^{にち}没^{ぼつ}までに、三つ^{みつ}の供物^{くもつ}を集^{あつ}めることができた^いら、十二年^{じゅうにねん}ぶりにまつりが開催^{かいさい}できるんだって。ぼくは、ねこたちとともに供物集^{くもつあつ}めにのりだした。

